

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

2019021

プロジェクト名 走れ！コミュニティ屋台！！

プロジェクトの概要

学生やお年寄り、家族、そして外国人などのいろいろな人達が、自分の世代や性別、国籍にとらわれず、また誰かに強制されるまでもなく、自然に『わ』をつくり、みんなで笑って過ごすことのできる居場所を作りたい。そして、その居場所で「地域コミュニティ」内の人の交わりを再生し、未来につなげていきたい。そのために装置としての「屋台」を人と人が交わる装置としての意味合いを持たせることでプロジェクトを進めていく。

プロジェクトの結果・成果

初めて行うプロジェクトでもあったため当初の目標にたどり着くことはできなかった。

本プロジェクトの目的として「小さな公共空間」＝「スーパーマイクロ・パブリックスペース (SMPS)」を様々な形で作ることによって、人々とコミュニケーションを取り、コミュニティを再生・継続していくことを一つとしている。そのため今回は特に、元々あった「地域コミュニティ」内での人の交わりを再生するようにつとめた。

最初の活動として「屋台」作成についてです。屋台作成をプロジェクトメンバーだけで行うのは今回の目的に沿わないため、一つのイベントとして行うことにしました。地域の人たちを対象に周知しましたが、なかなか人を集めるのは難しかったです。結果として少数の人たちが屋台作成に参加してくれました。「屋台」については持ち運びを重要視した簡易的なものを作成しました。

次の活動として「イベント」についてです。周知することで人を呼び出すことができますが、今回の方法としては敢えて周知を行わずにありのままの状態から SMPS を作ることを選択しました。理由として、その時その場所にいる人たちと一緒に地域コミュニティを作成するのが目的なので、周知してしまうと前提条件が崩れてしまうからです。具体的な活動としては、作成した「屋台」を落書きができるようにカスタムすることで出会った子供たちに絵を描いてもらうイベントを行いました。その時その場所で出会える子供達を「絵」という共通言語で会話できるようにすることでコミュニティを作成しました。

実際のイベントの一つについて。船橋市のある公園で十数人の子供たちと絵を描く活動をしました。たった1時間の間の活動でしたがその間に地域のお年寄りの形や保護者の方達と「わ」を作ることができました。活動写真はその1部です。

活動写真

